

パネルディスカッション「混合型肝癌の亜分類」

司会：坂元 亨宇 先生（慶應義塾大学医学部病理学）

近藤 福雄 先生（帝京大学医学部附属病院病理診断科）

【司会の言葉】

混合型肝癌の分類は、2010年のWHO分類から、亜型の一つとして、幹細胞亜型 Subtypes with stem cell features が加えられた。そして、その幹細胞亜型はさらに3種類の亜型、すなわち、典型亜型 Typical subtype, 中間細胞亜型 Intermediate-cell subtype, 細胆管細胞亜型 Cholangiolocellular subtype に分類された。そのため、幹細胞亜型以外の古典型 Classical type を加えて4種類の組織所見を混合型肝癌で認識しなければならなくなった。一方、幹細胞亜型に関しては、その解釈や使用法が難しいという声も上がった。その後、2018年の国際コンセンサス論文や、2019年の新WHO分類での改訂により、幹細胞亜型は、分類としては廃止されたが、依然として、組織所見としての記載は残っている。したがって、病理医は、これらの亜型の組織所見や成因の解釈を、今後も正しく行うことが求められている。また、stem cell features はあくまで features であり、幹細胞由来の証拠ではないという記載もあり、現在、解釈がさらに難しくなっている。今回、これら、様々な幹細胞亜型の組織所見や成因をどのように考えるか、多くの病理医の意見を取り上げ、今後の問題解決のための一助としたい。さらに、臨床、画像診断的な視点からの検討結果も併せて、議論したい。